

關係に彼我の風俗の類似を對比されたのである。今日ではこゝに記されてある習慣の二三は既に無くなつてゐるが、翁草に都に近けれど風俗異國人に近しとあるのを注意されての立言である。但しこゝした風俗について八瀬のみでなく廣く日韓風俗の類似を調べてみたら面白い結果になると思ふので、摘録して讀者の注意を喚起しておく。(F)

新著紹介

○播磨風土記物語

松岡靜雄述 四六版本文索引共二五
一頁 昭和二年十月 東京駿河臺刀江書院發行
定價金一圓八十錢

播磨風土記を分解して傳説、神、人、地誌、住民、風俗の六項に關するものを解釋したものである。この風土記は民俗學的の記述に富んで居るもので従つてこの物語も地理的の事項は少なく民族學的の考案である。列讀し難い箇所を合理的に讀み直した簡単な考證が註として擧げられて居て、栗田氏の標註古風土記などの及ばなかつた點を明かにして居る。我國の古い地理書として風土記を考察するものには參考になる點の多い著書である。(N)

○航海の語

米村少將著 科學知識普及會發行
定價貳圓五十錢

海軍少將米村末喜氏が、學術講話會で講演しられた筆記を訂

正したもので、章を分つこと七、水路圖書、水路の器械、水路の設備、航海法、船の歴史海路等に關して極めて常識的に明瞭に書いてある、菊版一七四頁圖版八十五圖、世界航路圖と、東京灣の海圖二葉を附録にしてある、測深の方法、其器械、コムパスなどの知識から天測の方法を明にし、世界船舶界の現状を説明したものである、科學知識の普及としてこの上ない指針だと思ふ。(藤田)

○土木建築工事砂利

理學士 江州弘毅著
菊版本文四〇六頁、昭和二年十月、工業雜誌社發行
定價四圓八拾錢

應用地質學の開拓、殊に所謂鑛床學以外の土木建築に關する方面への地質學の進出は寧ろ最近の出來事である。地中に隧道を穿ち、地上に建築物を築く爲めに地質學の必要なるは論を俟たない。然し之れにも増して必要な事は良き建設材料を廉價に得る事である。殊にコンクリートの利用が盛んなるにつけ、種々なる道路の擴張が盛んなるにつけ、益々其の必要を感じらるるのには本書の如き著書である。著者は地質學出身の新進であつて卒業後復興局にあつて全然砂利の事のみを研究して居た爲めに工科出身の人に企畫し得ぬ特徴をも多少示して居る。然し殊に讀者に取つて力強く感ずるのは實に其の親切を極めた記載であつて、凡そ砂利を採集し、賣買し、利用する事に關しては細大洩さず記載してある。甚だ卑近なる比喩ではあるが實に本書一冊あれば砂利屋を開業する事は易

々たる如く思はれる。編を生産、採集、運搬、用途及び附録の五とし、各を更に四、五の章に分けて居る。附録には「砂利の採取規定」、「工業仕様書例、其他」と言ふ章すらある。恐らく建築及び土木家に推奨しても恥しない良書である。

(本間)

○地質調査所發行、七萬五千分ノ一地質圖、「足助」

(清野信雄、石井清彦兩技師調査)定價貳圓、「筑波」(佐藤才止技師調査)定價貳圓、「室積」(赤木健技師調査)定價貳圓貳拾錢、「岡山」(赤木健技師調査)定價貳圓五拾五錢、何れも丸蓋にて發賣尙ほ「銚子」(山根新次技師調査)は昨年出版されたが發賣されて居らぬが印刷發行所は小柴製版印刷所。(本間)

雜 報

○富士の祭山

愛知縣の知多半島には珍らしい地名が多い、成岩(ナラツ)常滑(トコナメ)など萬葉讀みの名は既に人口に膾炙してゐるが、この富士(フツトと讀む)の如きも面白い名の一であらう。河和町の北にある部落であるが、こゝに祭山といふ山があつて、珍らしく火山から噴出した浮石砂層から成立してゐる(村全體の地質も礫層と粘土層とのみが発達してゐる所である)磨砂採掘事務所が村にあるが、そこから十五六町の祭山につくと、やゝ質はわるいが浮石を露天掘に採掘してゐる、上等品は猶二十町も奥に行かぬと出ぬさう

な。こうして採取した浮石を粉末にすると、それが所謂精米用、精麥用の白土で、或はガラスの原料ともなり、他の磨料ともなる。日本の各地に仕向けられるが、御蔭で我々は砂入りの白米を食はせられる。この村のは四國へ仕向ける量が尤も多いとの事。此半島に火山がないのに、何故こゝに浮石砂層が分布されてゐるかは面白い研究問題であらねばならぬ。

第三紀にこゝに流れてきて堆積したのであるか、或は今目に見えぬ近くに火山があつたか一寸面白いものである。又祭山の南西には粘土を採掘して精製して常滑燒の原料にも供してゐる、共に研究の價値があるらしい。(會員群嶋正男報)

○小笠原の地質其他

「小笠原は第三紀始新統時代の舊火山から成る小笠原群島と、第四紀の新火山からなる硫黄列島の二つから成立する、而して小笠原群島は往時は富士火山帯に屬するものとして知られたが、其後調査の結果、全く富士火山帯と趣を異にし、古く始新統時代に噴出し、中新統時代に達せぬ内に終熄せる數個の舊海底火山から成れることが確められた、基岩は父島列島は安山岩の一種無人岩、母島列島は輝石安山岩で其多くの部分は水成による集塊岩及凝灰岩から成り、父島旭山の如き海拔二六〇餘米の山頂に至る迄集塊岩から成り、母島に於て貨幣石や鮫の齒其他の化石を有する凝灰岩は海拔相當高き所に存し、又母島の石門山や父島の南崎には珊瑚礁が隆起して數段階をなし、石門山の如き二四〇米内外の高に於て石灰岩をみる。これに反して父島の二、